

理事長就任ご挨拶

2021-3-5

大橋 弘隆

この度、小林前理事長の後任として大役をお受けすることになりました。コロナ禍の影響を受ける中、いろいろな変化に機敏に対応されてきた前理事長のご功績に対し心から敬意を表したいと思います。歴代の諸先輩を中心として築いてこられた東京六大学準硬式連盟の基本理念を継承し、微力ながら努力して参りますのでよろしくお願い致します。

さて、私が大学卒業したのは1974年でしたので、47年前になります。私は、造船会社に就職して、当初は岡山県におりましたので、連盟との関係はありませんでしたが、ここ10年程は理事としてお手伝いをさせていただき、貴重な経験を積ませていただきました。

その中で感じたのは、若い感性を生かして、学生の皆さんが主体となって連盟を運営して行く事が重要であると言う事です。理事を中心とした我々役員は、その良き支援者として、いろいろな経験や知識を運営に生かして行きたいと思っています。

最近ある本を読んでいて、「empathy」という言葉を目にしました。これは、「自分がその人の立場だったらどうだろうと想像する事によって、感情や経験を分かち合う能力」であり、より身近な言葉で言えば「自分で誰かの靴をはいてみること」とも言えるようです。

本連盟において、多様性に富んだ方々が集い、切磋琢磨しながら準硬式野球を楽しみ、さらなる高みを目指して行く中で、「empathy」を持つ事は本当に大切だと思っています。

学生の皆さんが、今後長い人生を歩んでいく中で、この事を頭の片隅に留めていただければ幸いです。

以上